

▼谷川晃一「2009
 新作版画と絵本」展（8
 月4日まで、新潟市中央
 区西堀前通1のギャラリ
 ー蔵織）

今年71歳の谷川晃一は
 1963年、最後の読売
 アンデパンダン展に25歳
 で出品している。20代か
 ら渋谷龍彦、土方巽等の
 「舞踏ジュネ」のポスタ
 ーを描くなど時代の先端
 で活躍していた。

欧米文化がなだれ
 込んだ戦後の日本
 は、アートシーンも
 例外ではなかった。

アクション・ペイン
 トのポロック、ネオ
 ダダのラウシェンバ
 ーグやウオホルの
 ポップアート、草間
 弥生の過激なハプニ
 ングやサイケデリッ
 クアート等と並列して、

自由な表現と描く喜び貫く

プチュアルアート（観念
 芸術）がもてはやされた。
 新潟では現代芸術に光を
 当てた長岡現代美術館が
 64年に開館するなど、60
 年代の日本は「芸術」で
 はなくカタカナの「ア
 ト」ぼっとうき勃興期だった。

そんな時代の中で、谷
 川は絵画制作と並行して
 美術批評を始める。キッ
 チュ、アニミズム、フォ
 ークアート等を評価し権
 威主義的既成芸術に反抗
 していたが、かえす刀で
 理屈を張り付つけた

「観念芸術」をもき
 っちり批判し続け
 た。自由な表現と描
 く喜びを大切にした
 軸足は70歳を超えた
 今でもぶれることが
 無い。

88年、東京から静
 岡県の伊豆高原に移
 住し、作品は明るく
 なった。2000年
 には日本絵本賞を受賞
 し、NHK教育テレビで
 「谷川晃一の自由デッサ
 ン塾」が放映された。
 その時の著書『絵は
 だれでも描ける』は
 大きな反響を呼ん
 だ。

本展では、新作版
 画と絵本原画ととも
 に、1980年代の
 作品も紹介してい
 る。

